

日米安保の歩み

日本の歴代首相

東久迥稔彦
1945・8~45・10

幣原喜重郎
45・10~46・5

吉田 茂
46・5~47・5

片山 哲
47・5~48・3

芦田 均
48・3~48・10

吉田 茂
48・10~54・12

鳩山一郎
54・12~56・12

石橋湛山
56・12~57・2

岸 信介
57・2~60・7

池田勇人
60・7~64・11

佐藤栄作
64・11~72・7

田中角栄
72・7~74・12

三木武夫
74・12~76・12

福田赳夫
76・12~78・12

大平正芳
78・12~80・6

鈴木善幸
80・7~82・11

中曽根康弘
82・11~87・11

竹下 登
87・11~89・6

宇野宗佑
89・6~89・8

海部俊樹
89・8~91・11

宮澤 昭一
91・11~93・8

細川護国
93・8~94・4

羽田 孜
94・4~94・6

村山富市
94・6~96・1

橋本龍太郎
96・1~98・7

小淵恵三
98・7~2000・4

森 内閣
2000・4~01・4

小泉純一郎
01・4~

米国の歴代大統領

トルーマン
1945・4~53・1

マッカーサー
元帥

アイゼンハワー
53・1~61・1

ケネディ
61・1~63・11

ジョンソン
63・11~69・1

ニクソン
69・1~74・8

フォード
74・8~77・1

カーター
77・1~81・1

レーガン
81・1~89・1

ブッシュ
89・1~93・1

クリントン
93・1~2001・1

W. ブッシュ
01・1~

1950
年

1960

1970

1980

1990

2000

- 年・月
- 1945・8 ポツダム宣言受諾。敗戦
- 46・3 チャーチル英前首相「鉄のカーテン」演説
- 47・5 日本国憲法施行
- 49・10 中華人民共和国成立
- 50・6 朝鮮戦争爆发
- 50・7 マッカーサー連合国軍最高司令官が警察予備隊創設を指令
- 51・9 対日講和条約と日米安保条約に調印
- 54・7 防衛庁、自衛隊が発足
- 56・10 日ソ共同宣言調印、国交回復
- 60・1 新安保条約調印
- 60・5 新条約を衆院本会議で強行可決
- 60・6 デモ隊が国会突入し、東大生樺美智子さん死亡。アイゼンハワー米大統領の訪日中止、岸信介首相が退陣表明
- 64・8 トンキン湾事件。米のベトナム軍事介入本格化。政府が米原潜の寄港受け入れを決定
- 67・12 佐藤栄作首相が衆院予算委員会で非核三原則を表明
- 69・11 沖縄の核抜き本土並み返還で合意
- 70・6 日米安保条約が自動延長
- 71・7 ニクソン米大統領、翌年の中国訪問を発表
- 72・5 沖縄の施政権返還
- 72・10 田中角栄首相が訪中。日中共同声明で国交正常化
- 75・4 サイゴン陥落。ベトナム戦争終結
- 78・8 日中平和友好条約調印
- 78・11 「日米防衛協力のための指針(ガイドライン)」決定
- 79・12 ソ連のアフガニスタン侵攻
- 81・5 鈴木善幸首相がシーレーン防衛を表明
- 83・1 中曽根康弘首相が「日米は運命共同体」「日本列島は不沈空母」などと発言
- 89・12 マルタで米ソ首脳会談。冷戦終結
- 90・8 イラクがクウェート侵攻
- 91・1 湾岸戦争爆发
- 94・6 朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の核開発疑惑をめぐる危機がカーター元米大統領訪朝で回避
- 95・9 沖縄で米海兵隊員による少女暴行事件
- 96・4 冷戦後の安保の役割を再定義した日米安保共同宣言を発表
- 97・9 新ガイドラインで合意。周辺事態での協力を盛り込む
- 2000・6 金大中大統領と金正日総書記が南北首脳会談
- 01・5 ブッシュ米大統領、ミサイル防衛拡大を表明